

レポート

# 2023年 ネットワークの トレンド予測 トップ6

aruba

a Hewlett Packard  
Enterprise company





# 2023年トレンド

人手不足→少人数でより多くの仕事

インフレ圧力→

予算が縮小する中でもイノベーションを継続

サプライチェーンの障害→

新しいテクノロジーを創造的に活用

地政学的不安→サイバー攻撃の増加に対応

ネットワークが果たす役割はますます重要になっており、不確実性の中で成功を収めるために必要なトランスフォーメーションジャーニーを後押しすることで、2023年に**次に到来するもの**に備えて組織を準備します。





# 1 2023年末までに20%の組織がNaaS戦略を導入

経済状況が厳しくなる中で、IT部門は、ネットワークインフラストラクチャの購入、展開、運用における柔軟性を必要としています。それは、ネットワークチームが、単にデバイスを管理するのではなく、ビジネス成果を挙げられるようにするためです。Network as a Service (NaaS) フレームワークに移行することで、IT部門は、予算、ITリソース、スケジュールの制約を満たしながら、ネットワークのモダナイゼーションを加速できます。しかもNaaS戦略の採用は、組織の持続可能性の目標達成にも寄与します。主要なNaaSサプライヤーは、カーボンニュートラルやリサイクル製造といった戦略を採用してきたからです。

**2023年、  
キャンパスWLAN NaaSの売上  
高は111%の増加を予想\*。**

\*650 Group, Ethernet Switch NaaS for the Campus Quarterly Market and Long-Term Forecast Report (2022年11月)

## HPEのサポート

HPE GreenLake for Arubaの導入により、組織は次のことを実現できるようになります。

- 最新のテクノロジーを迅速かつ効率的に取得して展開
- ビジネスや市場状況の変化に応じて新しいユースケースを迅速に展開
- ITコストと実際の使用量を調整
- オーバープロビジョニングを削減/防止
- 継続的なトレーニングコストを最小化



## 2 組み込みのセキュリティが後付けのセキュリティに取って代わる

サイバーセキュリティリスクの低減は、運用上の中核的な懸念事項となっています。IT部門にとっては、セキュリティアーキテクチャーの自動化に向けたトランスフォーメーションは必須の課題です。ネットワークの周囲に境界ファイアウォールを後付けするだけでは、もはや脅威と脆弱性への防御は不可能です。ネットワークインフラストラクチャのあらゆる要素、すなわちWi-FiアクセスポイントからLAN、キャンパスおよびデータセンターのスイッチ、WANゲートウェイ、そしてクラウドにいたるまで、セキュリティが組み込まれている必要があります。ゼロトラストとSASEフレームワークの連携は今後より緊密なものになります。それは、脅威の防止にとどまらず、ユーザーや、接続されたデバイス、アプリケーション、ネットワークサービス、コンピューティング、ストレージプラットフォームなどのITスタック全体を通じてマイクロセグメンテーションを適用するためでもあります。



### HPEのサポート

- Aruba ESPゼロトラストおよびSASEフレームワークにより、エッジからクラウドまでの包括的で一貫性のあるセキュリティを実現
- ClearPass、CloudAuth、NetConductorによりIDおよびロールベースの堅牢なアクセス管理とマイクロセグメンテーションを実現することで、組織のコンプライアンス要件の達成に寄与
- Aruba SD-WAN組み込み型次世代ファイアウォールにより従来のブランチファイアウォールを置き換え
- 主要なSSEプロバイダーとの自動統合によりネットワークパフォーマンスやセキュリティ機能を低下させずに最適な構成のSASEアーキテクチャーを実現

 Enterprise Strategy Group の報告:  
by TechTarget

# 2023年

サイバーセキュリティは、ITリーダーが支出増加を見込むテクノロジーの第1位\*。

\*ESG、2023 Technology Spending Intentions (2022年12月)





### 3 ロケーションサービスにより 新しいビジネスモデルと効率 性の向上が実現

熟練した人材の不足と繰り返されるサプライチェーンの混乱により、企業は効率性、生産性、リソースの向上を強いられることとなります。資産、在庫、仕掛品、従業員、顧客、契約業者、サプライチェーンの現状認識の達成に向けて努力することで、コスト、リソース、品質、知的財産の管理を改善することができます。そのためには、情報テクノロジー (IT)、モノのインターネット (IoT)、運用テクノロジー (OT) 関連のデータを、環境に関するコンテキスト情報と結合させる必要があります。作業関連のアクティビティや資産の正確な場所、ユーザーとマシンのアイデンティティ、リアルタイムの使用アプリケーションとその使用者、すべてのデバイスとマシンのセキュリティポスチャを把握することが、新たな重要課題として浮かび上がってくるでしょう。

#### HPEのサポート

- Arubaは業界初のWi-Fi CERTIFIED Location™アクセスポイントを提供
- Aruba Centralで管理されるWi-Fi 6E APIはすべてGPSレシーバーを内蔵しているため、ワイヤレスネットワーク全体のマッピングが容易
- 内蔵BLE/Zigbee無線および有線USBポートによりIoTオーバーレイが不要化
- Aruba Centralが管理レイヤーとしてロケーションサービスおよびIoT統合を提供

#### IDC の報告:

# 2023年

全世界のIoTデバイスの数は  
350億台を超え、2025年まで  
に420億台近くに増加する見  
込み\*。

\*IDC、IoT IT Infrastructure Survey (2022年6月)





## 4 IT部門は一元化された1つのネットワークおよびセキュリティ管理プラットフォームに運用を統合

ユーザーエクスペリエンスの改善とIT運用の合理化のため、企業はデジタルテクノロジーの多様化を進めています。同時に、従業員や顧客は、企業のビジネスモデルにかかわらず、リアル/デジタルの両方に関して、統合されたより良好なエクスペリエンスを期待しています。こうした動きによって、ネットワークとセキュリティの両方の複雑さが増し、インフラストラクチャの管理はますます複雑になっています。エンドユーザーのエクスペリエンス品質の向上とサイバー攻撃からの保護を両立させるため、IT部門は、単一の一元管理システムを通じて、ネットワーク全体を可視化し、エッジからクラウドまでのQoSとセキュリティポリシーの設定を可能にする方向に進むことでしょう。

### HPEのサポート

- Aruba Centralにより、Wi-Fi、スイッチング、VPN、SD-WANインフラストラクチャに対する一元的な可視化と制御を提供
- クラウドネイティブ機能により、大企業に必要なスケール、耐障害性、管理ツールを提供
- IoTとの双方向の統合およびセキュリティエコシステムにより、インフラストラクチャの集約と保護を支援



## 2023年までに

ITリーダーの51%が、管理、オーケストレーション、自動化のためのツールへの支出を増やす見込み\*。

\*ESG、2023 Technology Spending Intentions (2022年12月)



## 5 SLAの測定基準が、ボックスの稼働時間やリンクの可用性からユーザーエクスペリエンスに変わる

IT部門は、ハイブリッド作業の要件に応じてネットワークを最適化する必要があります。企業には、従業員と顧客に向けたシームレスなエンドユーザーデジタルエクスペリエンスの実現を目標とした、専任チームが設けられるでしょう。ネットワーク中心の観点からクライアント中心の観点に移行するには、エクスペリエンス品質がエンドユーザーの期待を満足していることを確認するため、包括的なエンドツーエンドの可視性とアプリケーションレベルの有益な情報が必要です。ネットワークパフォーマンスを厳格に制御するだけではもはや不十分です。どんな場所からアクセスしているユーザーにもシームレスなエンドユーザーデジタルエクスペリエンスを届けるため、アプリケーションの応答時間とパフォーマンスの問題をリモートで迅速に発見してトラブルシューティングできる能力が不可欠となるでしょう。

**Gartner** の予測:

ITリーダーの35%が、パンデミック後の作業慣習と技術進歩の中で今後も残る可能性が高いものとして、「ビジネスの成長とイノベーションの推進要因としての従業員エクスペリエンスは引き続き最優先事項」と回答\*。

\*Gartner、Next-Gen Campus Connectivity Must Start by Defining the End-User Experience (2022年5月)

### HPEのサポート

- Aruba UXIのリアルタイムのカスタマーエクスペリエンス監視により、重要なアプリケーションのエンドツーエンドの動作を確認
- AIOps自動インシデント検出により実用的な情報を提供
- アラートとトラブルチケットの自動作成によりトラブルシューティング時間を短縮
- エンドユーザーのエクスペリエンス品質の向上によるヘルプデスクコールの削減





## 6 AI Opsは本来の有益な情報提供の主体から自動修復へと進化

エンタープライズクラスのネットワーク管理ソリューションで一般的になったAI、クラウド導入、大量データへのアクセスによって、自動化が注目を浴びようになりました。フルスタックのネットワーク全体での類似したエラー症状の集団的発生を突き止めることで、ワークフローのオーケストレーションが可能になり、IT組織は、ソリューションによる問題の自動修復を容易に実現できるようになっています。ITを効率化し、少ないリソースでより多くの成果を挙げる必要性から、人間援助型ワークフローの採用が進んでいます。これにより管理者は、現在進行中の問題の修復を本番環境に適用する前に、推奨される変更とその影響を調べることができます。

### HPEのサポート

- HPEの共通データレイクとArubaの専門知識を利用して、AIインサイトにより自動修復やネットワークパフォーマンスの一般的な問題の回避を実現
- AI搭載のClient Insightsにより、自動デバイスプロファイリングによるポリシー適用の改善を通じてネットワークセキュリティを機能強化
- AI搭載のRF最適化により、チャネル割り当てと帯域幅調整を自動化

## 2023年までに

ITリーダーの63%がAI/ML分野のIT支出の増加を予想\*

\*ESG、2023 Technology Spending Intentions (2022年12月)





# 次に到来するものに備えて

1

2023年末までに20%の組織がNaaS戦略を採用  
[HPE GreenLake for Arubaの詳細はこちら](#)

2

組み込みのセキュリティが後付けのセキュリティに取って代わる  
[ArubaゼロトラストとSASEセキュリティフレームワークの詳細はこちら](#)

3

ロケーションサービスにより新しいビジネスモデルと効率性の向上が実現  
[ArubaのOpen Locateイニシアチブの詳細はこちら](#)

4

IT部門は一元化された1つのネットワークおよびセキュリティ管理プラットフォームに運用を統合  
[ネットワークのモダナイゼーションの詳細はこちら](#)

5

SLAの測定基準が、ボックスの稼働時間やリンクの可用性からユーザーエクスペリエンスに変わる  
[Aruba UXIIによるエンドユーザーのエクスペリエンス品質の確保の詳細はこちら](#)

6

AIOpsは本来の有益な情報提供の主体から自動修復へと進化  
[ArubaのAIOpsソリューションの詳細はこちら](#)



aruba

a Hewlett Packard  
Enterprise company

© Copyright 2023 Hewlett Packard Enterprise Development LP.

本書の内容は、将来予告なく変更されることがあります。ヒューレット・パッカード エンタープライズ製品およびサービスに対する保証については、すべて当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対しては責任を負いかねますのでご了承ください。

EBK\_Top\_Six\_Networking\_Trends\_DC\_011023 AEM# a00129291jpn